

## 【愛知】元ホームレスや元受刑者も訪問して医療サポート行う精神科医-渡邊貴博・鶴舞こころのクリニック院長に聞く◆Vol.1

2022年2月25日（金）配信 m3.com地域版

ホームレスの6割が精神疾患や知的障害を抱えている——。自身がNPOと行った調査結果を踏まえ、元ホームレスの人への訪問診療を続ける精神科医が名古屋市にいる。「鶴舞こころのクリニック」（中区）の渡邊貴博院長は2009年から路上での炊き出しや医療相談を行い、つながりのできた人を訪問。岡崎医療刑務所からの依頼で元受刑者も支援する。「精神科医療は患者さんの生活の中で改善を試みるアウトリーチが重要」と話す渡邊院長に聞いた。（2022年2月1日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）

——まずは、鶴舞こころのクリニックの概要についてお聞かせください。

当院は精神科のクリニックであり、2019年に私が継承しました。現在は外来診療と在宅医療、デイケアを行っており、スタッフは医師が私と非常勤医の2人で、看護師、訪問看護師、精神保健福祉士を合わせて26人が在籍しています。現在の来院患者数は1日に50人ほどで、訪問患者数は100人ほどです。在宅医療では居宅と5つの精神障害者向けグループホームを訪問しており、訪問患者さんの割合は居宅と施設で半々です。クリニックは6階建てビルの1階と2階に入居し、1階に診察室を、2階にデイケアができるスペースを備えています。



渡邊貴博氏（本人提供）

——先生は、精神科在宅医療として元ホームレスや元受刑者の方も訪問していると聞きました。

はい。重度の精神疾患で医療機関に通院できない人のほか、元ホームレスの方や元受刑者、引きもりの方も訪問しています。対象となる元ホームレスの方は、私が2009年からNPO法人「ささしまサポートセンター」（名古屋市中村区）と一緒にいる路上での炊き出しや医療相談によってつながりのできた人のうち、医療的なサポートが必要だと思われる方です。同センターやほかのボランティア団体からも訪問診療に関する相談が寄せられます。元受刑者の方については、精神疾患のある成人男性を収容する岡崎医療刑務所（岡崎市）の職員から依頼があります。出所するものの病態が重く、医療介入が必要な方を紹介されるわけです。

——ホームレスの人の中には、精神疾患など内的な問題を抱える方が少なくないのでしょうか。

私はむしろ多いと感じています。それは、調査結果の数字からも示唆されます。私は2014年、同センターのスタッフや医師、歯科医師、臨床心理士、精神保健福祉士などと一緒に132人の体制で名古屋市に住むホームレスの方の実態調査を行いました。すると、調査に協力してくれた114人のうち、（1）精神疾患を抱える人、（2）知的障害を抱える人、（3）いずれも抱える人——が71人いました。割合にすれば62.3%に上ります。精神科医の森川すいめい先生などにより、同じ趣旨で行われた池袋での調査でもほぼ同じ結果が出ています。名古屋市と池袋の調査対象者に重複はないと思うので、これらの割合が「日本のホームレスの実態」と解釈しても良いのではないのでしょうか。ホームレスや元ホームレスの方への精神科アプローチの必要性は高いと思います。

——先生はなぜ、この調査に携わったのですか。岐阜県の出身で、医師としても同県に勤めていたとホームページにあります。

同センターから調査実施の相談を受けたためです。私は2001年に岐阜大学医学部を卒業し、みどり病院（岐阜市）と南生協病院（名古屋市）で内科、神経内科、救急の研修を、関西と関東の3つの病院で精神科の研修を受けた後、岐阜に戻って2009年にみどり病院で精神科を開設しました。先述の森川先生と私は以前から親交があり、ちょうどこの時期に森川先生から同センターを紹介されたのです。この団体はホームレスの支援活動に端を発して現在は貧困層の学習支援など複数の事業を行っており、森川先生を講演に招いた際、東海地方の近くの医師でホームレス支援に関心のある医師がいなかったかと相談したようです。

それで、同センターと一緒に路上での炊き出しや医療相談を始め、3年ほどかけて準備を進めて2014年に調査を行いました。

——NPO法人ささしまサポートセンターとの出会いや調査実施が、医師としての拠点の移行につながっていくのでしょうか。

そうですね。調査結果によってホームレスの方の多くが内的問題を抱えていることを改めて知った私は、同センターの希望もあり、元ホームレスへのアウトリーチ（訪問支援）活動を名古屋市で始めました。元ホームレスの方の中には、路上生活からは抜け出したものの精神疾患や知的障害を抱えているなど本人の特性が影響し、一人暮らしの生活が安定しないことが多いのです。そこで、私が訪問して精神症状の緩和や生活の安定化を図っていこうと考えました。これが2016年であり、合わせて医療法人「八事（やごと）の森」が運営する「杉浦医院」（名古屋市昭和区）に精神科を開設しました。そもそも、同センターは八事の森が母体のNPOなので、その関連で杉浦医院での診療にも関わるようになりました。

——その後、2019年に鶴舞こころのクリニックの院長に就任します。

アウトリーチ活動を始めてから、徐々に症状や生活が安定する人が出てきました。その中で課題になったのが、外来診療の受け皿です。在宅医療は症状が不安定で通院の難しい方を対象としていますが、患者さんの症状が安定してくるとその要件から外れるようになってきます。例えば精神疾患を抱える患者さんの症状が落ち着いてきて就労継続支援B型の事業所などに通おうとしている際、訪問診療を継続して受けるのは保険診療のルールやコンプライアンス的に不適切だと考えられます。そのような方は外来診療に移行してサポートを継続していく必要がありますが、名古屋市のホームレスの方は中区と中村区に多く、私が外来診療を行っていた杉浦医院のある昭和区とは少し離れています。他の医療機関を紹介することはできますが、患者さんは過去に精神科病院に入院して隔離拘束されたことがあるなど、医療に対してあまり良い印象を抱いていない人が多い。

そこで、患者さんと信頼関係を築いている私が患者さんの生活圏の中で外来診療を行えるよう、良い場所を探したところこちらが見つかり、継承させてもらいました。元は「鶴舞メンタルクリニック」という名でしたが、2019年の院長就任に合わせて現在の名に改めました。なお、当院の母体も八事の森であり、私は現在、こちらと同センターの理事も務めています。

#### ◆渡邊 貴博（わたなべ・たかひろ）氏

2001年岐阜大学医学部卒。みどり病院（岐阜市）と南生協病院（名古屋市）で内科、神経内科、救急の研修を受けた後、みさと協立病院（埼玉県）、代々木病院（東京都）、吉田病院（奈良県）で精神科の研修を受ける。2009年にみどり病院で精神科を開設。2014年に名古屋市のホームレスの実態調査に携わったことをきっかけに元ホームレスの人などへの訪問診療を開始し、合わせて同市の杉浦医院で精神科を開設。2019年、鶴舞こころのクリニック（同市）院長に就任。日本精神神経学会専門医・指導医など。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

#### → 愛知県に関する他のニュースを見る

[新潟県](#) [富山県](#) [石川県](#) [福井県](#) [山梨県](#) [長野県](#) [岐阜県](#) [静岡県](#) [愛知県](#)

#### 愛知県に関連するニュース

[仮想空間、アバターで会話-ポスター発表に新たな試み](#)  
3月2日

[愛知、防止措置延長要請へ 知事「感染劇的に減らず」](#)

3月1日

コロナ禍で「成績は下がっている」、医学部も対面授業困難に-高橋智・名市大医学部長に聞く◆Vol.1

2月28日

【名大】泌尿器科学分野の教授を公募

2月26日

患者らの個人情報流出か 名古屋大に不正アクセス

2月25日

記事検索

ニュース・医療維新を検索

